

考える会通信

秋保地区の交通を考える会

発行責任者 及川 純一
〒982-0244
仙台市太白区秋保町馬場字新田町89-4
TEL 399-2133



3月18日役員会の参加者紹介 3月18日第9回役員会にて撮影（秋保市民センター）
前列左から仙台市都市整備局岡田裕司、アドバイザー小島浩 会長及川純一（滝原町内会長）副会長大場拓俊（秋保小学校区連合町内会長）副会長湯目昌幸（湯元地区連合町内会長） 後列左から会計佐々木克真（秋保小PTA会長）庶務広報佐藤祐二（馬場小PTA副会長）庶務広報青野邦彦（秋保交通） 監査佐藤司（秋保温泉旅館組合）アドバイザー添田巧三（秋保地域包括支援センター）

未来も希望あるふるさとへ

及川新会長あいさつ

仙台秋保を愛する一人として、未来も希望ある郷土であって欲しい。この会の発足は公共交通のサービシベルが低い一方で、頻繁に空気バスを見かけるこの秋保で、地域の足を確保！と難題に挑む有志が結集した事にあります。壁になる議題は、地域住民の負担、公共交通の競争、さらに地域住民の意見を

どのようにまとめるのか、また、みなさんに愛され長期的に運用されるには、行政・事業者・地域住民での話し合いが最重要であると私たちは肝に命じ、取り組んできました。チャンネル到来です。この難題の解決が可能なになる支援策、この4月から仙台市都市整備局が新たな事業を打ち出しました。この仕組みを知って

みなで歓迎しました。私たちはこの支援策を次のステップで検討し、皆さんに喜んでもらえる地域交通を実現していきたいと思っております。

秋保地区の問題点を考える

平成30年の発足以来「秋保地区の交通を考える会」は、秋保全域でのアンケート調査や地域住民へ

皆さまには、中間報告として第1回全体会議開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、延期させていただきます。

合的に利用することで、秋保町全体の交通の利便性を向上させる方向で協議をすすめています。具体的には、秋保全体のニーズを①公共交通の空白エリア（森安、石神、竹ノ内）、②改善需要の高いエリア（野尻、滝原）、③観光需要の高いエリア（湯元、湯向）の3つに分類し、緊急性の高い①と②を仙台市の新しい地域交通政策でカバーし、③に向けては新たなアプローチが検討されているところですが、早ければ年内にも実証実験が始まる見通しで、秋保町が抱える地域の交通問題が、解決に向けて大きく前進するようになります。

事例発表で反響

秋保地区地域活動のつどい



秋保地区地域活動のつどいようす 令和2年1月25日（ホテルクレセント）

本年1月25日、ホテルクレセントにおいて「秋保地区地域活動のつどい」が開かれ、「考える会」が初参加し活動事例発表を行いました。この催しは年に一度秋保総合支所が主催し、秋保のため積極的に活動しているグループの発表の場としての位置付けとなっています。

五団体の事例発表とさまざまなグループのブース展示で構成された会場で「考える会」は庶務・広報担当の青野が発表を行いました。報告した内容は、①会設立のきっかけ、②設立の目的、③構成メンバー、④市バス利用

成された会場で「考える会」は庶務・広報担当の青野が発表を行いました。報告した内容は、①会設立のきっかけ、②設立の目的、③構成メンバー、④市バス利用

用実態調査から抽出された交通の課題⑤現在協議中の解決案等です。「地域活動のつどい」開催のわずか4日前、1月21日都市長は従来に替わる地

域交通支援事業を公表しました。このなかで市長は、具体的な適用候補地として、新川地区と秋保地区をあげました。秋保地区が候補に上がったのは、「考える会」

の活動の成果であり、この新事業に沿って今後のプランを組み立てる方針であることを説明しました。ブース展示では、さまざまなかから意見、要望を伺いました。

た。そのなかで「高齢者に視点をあてた発表だったが、障がい者にも配慮が欲しい」との意見を頂きました。

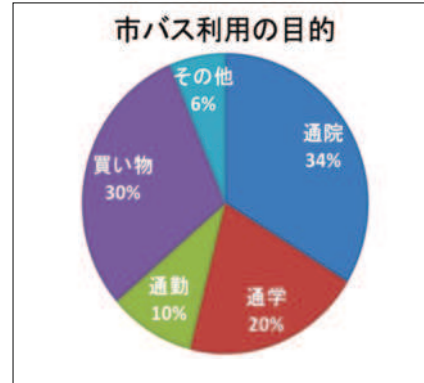
考える会のあゆみ

- 平成31～令和2年度代表者会議
- 第1回（令和元年6月19日）：役員選出、会則（案）作成＊7月9日役員会にて承認
- 第2回（令和元年7月17日）：仙台市都市整備局の参加開始
- 第3回（令和元年8月21日）：国久・石神地区ヒアリング、川崎町職員と懇談
- 第4回（令和元年9月18日）：滝原地区ヒアリング 市交通局と意見交換
- 第5回（令和元年10月16日）：バス運行状況の分析、地域交通について協議
- 第6回（令和元年11月20日）：地域交通協議、全体会開催延期決定
- 第7回（令和元年12月18日）：前会長勇退（現顧問）、秋保地区地域活動準備
- 第8回（令和2年1月15日）：全体会開催準備、秋保地区地域活動のつどい準備＊市「乗り乗り事業」公開＊25日「つどい」参加
- 第9回（令和2年2月18日）：「乗り乗り事業」について協議、全体会準備
- 第10回（令和2年3月18日）：全体会再延期決定、機関紙第5号発行決定

●はじめは、元町内会長さんとお医者さん、PTA役員さんと園児の送迎をしているタクシース会社さんによる有志の会でした。さまざまな方の協力を得て住民アンケートをし、平成31年6月「秋保地区の交通を考える会」が発足しました。毎月複数回会議を行う中で、国久や石神、滝原の方から直接交通事情をお聞きしたり、交通局や川崎町の地域交通担当者や意見交換などをし、話し合いを重ねてきました。仙台市のアドバイザー派遣や市社会福祉協議会の助成金も活用しました。今後も秋保地域全体で取り組みたいと思いますので、皆様のご理解ご協力、よろしくお願ひ致します。

編集後記

新型コロナウイルスの流行で、予定していた秋保町民全体会が延期となってしまいました。「考える会」から皆様にお伝えしたかったことを、とりあえず紙面に託すことにしました。皆様のご意見、ご感想などお聞かせください。今後の活動の糧にさせていただきます。



- ### 秋保町の交通不安
- 通学の送迎が大変
 - 通院や買い物が不便
 - そもそもバスが通っていない
 - 免許を返納したら生活できない

地域が作り育てる地域交通支援を強化します

みんなで育てる地域交通乗り乗り事業

仙台市からののお知らせ

地域交通は、最寄りのバス停がない、遠いなど、移動に課題がある地域において、日常生活に必要な移動を確保するため、既存の公共交通を補完する交通手段

市では、地域交通の立ち上げなどに取り組み団体に対し、技術的、財政的支援を行っています。地域のみなさまが中心となって、地域交通を「作る」ことで愛着がわき、運営に関わり「育てる」ことで持続可能な運行につながります。市では「高齢者の運賃負担を減らしてほしい」「人口が少

みんなで育てる地域交通 乗り乗り事業

地域の足の確保に向けた取り組みを支援します！

基本的な考え方：地域のみなさまが中心
持続可能な地域の足の確保に向け、地域のことを最も理解している「地域のみなさま」が中心となって取り組んでいくことが重要です。みなさまで地域交通を「つくる」ことで愛着がわき、運営に関わり「育てる」ことで持続可能な運行につながります。

▼このようなお困りごとの解決に向け、みなさまで地域の足の確保を考慮してみませんか？

中山間地域、道沿い地区、郊外地区

公共交通のサービスレベルが低い地域等において、通勤・通学・通院・買物等市民の日常生活に必要不可欠な目的のために運行する、既存の公共交通を補完する交通手段をいいます。

仙台市 都市整備局 総合交通政策部 公共交通推進課 地域交通係
仙台市青葉区四丁目二丁目7番1号（市役所本庁舎7階）
TEL:022-214-8359 FAX:022-211-0017
ホームページ: https://www.city.sendai.jp/kokyo/norinori.html

みんなが主役で

考える会アドバイザー 小島先生

みなさん、日ごろ、バスを使っていますか？
バス等の公共交通は、自分で自動車を運転できない子供や高齢者にとって、通学、通院などの日々の暮らしで欠かせない社会基盤です。

しかしながら、人口が減少し、利用者が減り、路線バスの現行サービスを維持することが、今難しくなっています。

さらに最近では、自動車運転免許証を返納する方も増えており、運転していた高齢者の方にとって、自動車を使えない暮らしを不安に感じ、これからどうするかが大きな問題となっています。

こうした問題は、秋保に限らず日本全国の各地で共通の問題となっています。

路線バスの事業者の力だけで解決するのは難しく、行政の力をもってしても容易ではありません。最近では、住民自身が事業者や行政と一緒に解決しようとする取り組みが全国で多くなっています。

誰かが何かしてくれる、という発想から、自分が、または自分たちが何をすべきか、何ができるのかを問い、住民自身が問題解決に立ち上がっています。

そうはいいっても、どうしたらいいのだろう、とみなさん思っています。

取り組みに直接関与するだけでなく、バスを利用することだけでも、また、活動を見守るだけでも、一人一人の力を結集することが大切だと思います。

みなさんが主役なのです。

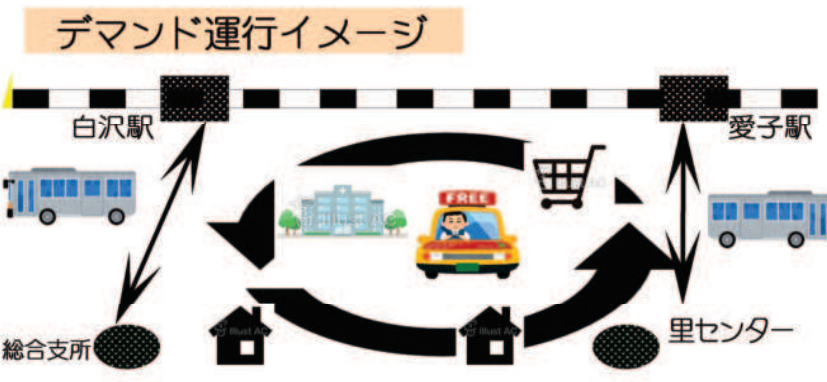
秋保で住み続けるために自分にはなにができるのかを一緒に考えてみませんか。そして、秋保を故郷と感じる人を、一人でも多くしていければと思います。

考える会からの提案は デマンド交通

デマンド交通にはさまざまな形態がありますが、「考える会」が想定するデマンドは利用者の希望に応じたドア・ツー・ドアで乗客を送り届けるサービスです。

使用する車両はタクシーですが、運賃をバス運賃なみにする計画です。運行地域は秋保町内に限定し、他地域への乗り入れはしません。他地域への移動は、里センター等をハブとし、他の交通機関へ乗換えて行きます。

基本的には乗合での運行となるため、



デマンド交通導入事例



利用者は事前の予約が必要となります。また、近隣の方と通院や買い物、通学の時間を調整していただくことで、待ち時間を短縮し、効率良く低予算での運行が可能となります。

シルバー割など各種割引も用意します。運営主体は地域の方々に組織する運営協議会です。経費を管理し、委託契約交通事業者を支払います。また広報活動をしたり寄付金を募ったりもしますが、一番の仕事は住民のニーズを把握し、より便利に快適に利用できるよう調整に心がけることです。

昨年実施した市バス利用状況アンケートで分かったことは、公共交通の便が悪い野尻、滝原地区、空白地である森安、石神、竹ノ内地区に何らかの処置を施し、高齢化の進行に取り残されない早急な対策が必要だということです。しかし、バスの延伸や乗り入れ

が財政上できない現状では、バスは既存のまま温存し、他の公共交通機関で補完するしかありません。「考える会」では、協議の結果これらの地域にデマンド交通を整備することが最も有効な対策であり、観光客にも喜ばれるものとなることの結論を得ました。

見えてきた課題と解決策

本格運行時の補助を新設するとともに試験運行時の補助率を引き上げ、さらに運賃収入の確保が難しい中山間地への支援を強化していきます。



また、高齢者や障がいのある方等の割引運賃への補助も新設しました。この事業により、秋保地区の移動手段がさらに充実され、だれもが暮らしやすく、安心して過ごせるまちづくりにつながることを期待しています。

デマンドを立ち上げるには、様々なハードルを超えなければなりません。最も高いハードルは運行経費をどう賄うかです。従来の市の支援策では、運行経費の3割負担という原則がありました。つまり運賃や寄付金登録料等を合算して地元で3割の収入があれば、残り7割を市が助成する仕組みです。

今回発表された「乗り乗り事業」では、運行経費負担を1割まで下げると記されており、大変使いやすい制度になっています。こうした財政的支援の他に、従来どおり国や道路管理者、交通事業者との調整、専門家派遣等の技術的支援も行われます。

会では地域合意を前提に制度を活用しデマンドによる地域不安を解消していきたいと考えています。